

令和6年度の研究について

【研究主題】

自分で考え みんなで学び合っ て 思いや考えをつなぐ子どもの育成
～ 子どもが「問い」 子どもたちで「ゴール」する授業 ～

【目指す子ども像】

学びをつなげて表現する子ども
～「書く」「話す」を中心に～

- ①自分の考えを「書く」「話す」子ども
【自分で考える】
- ②思いや考えを「伝える」子ども
【みんなで学び合う】
- ③学びを深めて「つなぐ」「生かす」子ども
【つなげる】

【目指す授業像】

子どもも先生も楽しい授業
～「ゴール」をイメージした授業づくりの研究～

- | | |
|---------------------|---------------|
| A 問いをつくる | 【主体的な学び】 |
| B 学びをつたえる | 【対話的な学び】 |
| C 生活、未来へつなげる | 【深い学び】 |
| D 学びのツールをつかう | |

【研究テーマ設定の理由】

本校の児童は明るく素直で、課題に真面目に取り組むことができる。これまで、自分たちが問い（めあて）をつくり、仲間と関わる学び合いの中で、相手や目的を意識して話し合い、自分たちでまとめていくことを目指した授業づくりを推進してきた。昨年度は特に「3つの問い（問いをつくる、学び合いの問い（指示）、ゴールの問い）」を共通実践事項してどの教科の授業においても実践、研究してきた。その成果として、秋田県学力状況調査の「思考力・判断力・表現力」を問う設問において良好であり、自分の考えをもち、友だちと考えを共有する力が向上している。

しかし、自分の考えを伝えるための語彙力や学びの基礎・基本の定着が不十分という課題より、学び合ったことを適切な言葉でまとめ、次の学びにつなげたり、生活で学びを生かしたりすることが難しい。

そこで、今年度も、「問い」にこだわることを基本としながら、授業や単元の「ゴール」をイメージした構造的な授業づくりを行うことで、主体的に見方・考え方を働かせることのできる授業改善を目指して、確かな資質・能力の育成を図りたいと考えている。

研究内容A <本時>

問いをつくり、

自分の考えをもつための工夫

- ①問いや意欲を引き出す課題設定や提示方法（事象・資料提示・発問）の工夫
- ②問いに対する自分の考えを「話したり、書いたり」する場面の設定

研究内容B <本時>

みんなと

学びを伝え合う場の設定

- ①考えをもち寄って、グループ（3人程度）や全体で何を学び合うかが、はっきりと分かる指示をする。
- ②学び合いにおける、明確な「書く場（みんなの言葉と心をつなぐ）」の設定

研究内容C <単元>

学びの深まりを実感して

学びをつなぐ工夫

- ①児童が学びを表現できる単元のゴールの工夫
- ②単元全体の具体的な評価と、振り返りの場面の設定

研究内容D <単元>

「個別最適な学び」と「協働的な学び」につながる ICT の効果的な活用

- ① 発達状況に応じた ICT の活用場面を積極的に取り入れる
- ② 学びのツールとして、個に応じた使い方や共有場面での使い方等、意図的な活用場面の設定

【研究仮説】

◎授業や単元において、「ゴールをイメージした構造的な授業づくり（4つの「つ」：つくる、つたえる、つなげる、つかう）をすることで、自分なりの見方・考え方を働かせて、主体的に“思いや考えをつなぐ子どもが育つであろう。

・つなげた学びをさらに実生活や他の学習で活用することに意図的に取り組むことにより、学びの深まりや充実感を味わうことができるであろう。

【研究のまとめ】

- ・PDCAサイクルを共有しながら研究内容に沿って全体の授業改善を図る。
- ・年に2度のアンケートを実施し、子どもの変容や指導の手立ての有効性を確認する。

学びのハ乙女桜

学びをつなげて表現する

「ゴール」をイメージした
授業づくり

問いをつくる

学びをつたえる

未来へつなげる

学びのツールをつかう

「研究プロジェクト」の組織と内容

◎リーダー ○サブリーダー

学力向上プロジェクト ◎ ○	【授業改善・スキルタイム・家庭学習をつなぐ学力向上】 【読書活動や詩の暗唱をつなぐことばの土台づくり】
心のプロジェクト ◎ ○	【道徳と特活の融合による「心を育てる学校」の実現】
ICTプロジェクト ◎ ○	【授業におけるICTの効果的な活用促進】

「学びのきほん」の確認（PTA授業参観日の資料として配布）

「学習の手引き」の活用

- ・「学びのきほん」はPTAの話題にする。
- ・「学習の手引きふりかえり表」で自己評価。【7月・12月・2月】
→指導者側の改善点を見つける機会でもある。
- ・「学習の手引き」を教室に掲示する。A3版（毎日の生活のめあてとして活用）

その他の学習活動について（提案）

スキルタイム

朝の活動 8:05~8:20 → スキルタイム表

月	火	水	木	金
ことば	いきいき特活	ことば	音読	ICT けいさん
・漢字練習 ・プリント学習 ・ことわざ ・辞書引き ・ローマ字 ・英単語	・計画委員 ・係活動 ・集会の準備 ・月の振り返り ・行事の振り返り	・漢字練習 ・プリント学習 ・ことわざ ・辞書引き ・ローマ字 ・英単語	・全校チェック 第2木曜日 第3木曜日 ・学級チェック 第1木曜日 第4木曜日	・計算練習 ・タブレットで計算

チャレンジテスト

（年8回ずつ：5～2月）→チャレンジカードとファイル

- ・漢字と計算の基礎・基本を身に付けさせることがねらい。

- ・チャレンジテスト（5、6、7、9、10、11、12、2月）

国語：水曜日を基本として

5/15（水）6/12（水）7/17（水）9/18（水）10/23（水）11/13（水）12/11（水）2/12（水）

算数：金曜日を基本として

5/31（金）6/26（水）7/12（金）9/27（金）10/30（水）11/29（金）12/20（金）2/21（金）

☆テストの1～2週間前にはテスト範囲をお便りなどで知らせる。年間でお伝えするのも可

- ・ファイルにテストとチャレンジカードを綴じておく。（家庭のサインをもらう）
- ・各学年の「チャレンジテストがんばり表」に点数を記録しておく。
- ・スキルタイム（15分間）でテスト実施・採点・直しをし、その日のうちに、ファイルに綴じて持ち帰りができるようにする。→問題数20問、内容は漢字・計算の基礎基本。

詩・教科書の暗唱（毎月、各学年に応じた音読カードを担当が作成して配付）

→音読カードのスタイル……A4画用紙に表裏印刷、音読カードについて（全校統一した形式）

- 〈めあて〉
- ・読む力をつけるだけでなく、先生たちに聞いてもらい、話し方も学ぶ。
 - ・様子を思いうかべたり、意味を理解したりできるようになる。
 - ・書かれている内容から感じ取ったことを、豊かに表現できるようになる。

→例：抑揚、間、強調、強弱、声色等……滑舌のよさを意識して

- 〈取り組み方〉
- ・各学年で月の始めに詩（1～2篇）の読み方を学級で確認し、読み方について工夫させる。（家庭でも音読カード等を活用し練習を勧める。）

- ・「ことわざ」「故事成語」「古典」なども積極的に取り上げ、意味や訳も一緒に紹介するように記載する。
- ・詩に替わり国語の教科書の中から範囲を決めてもよいことにする。(読む力の向上)
- ・第2、第3木曜日を全校音読・暗唱チェックデーとして全員の先生方に子どもたちがカードを持って出向き、聞いてもらう。サインか判子をもらう。
→4月は学級チェック、5月から全校チェックをスタートをする。
- ・その他の木曜日の音読・暗唱日は、学級練習や学級チェック日とする。
- ・月末には、暗唱できているか担任がチェックし、名簿に記録しておく。

家庭学習パワーアップ

- ・7年部の先生に全校のN(家庭学習)ノートを点検してもらう日を設ける。(5月スタート)
(前期の例)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
①	担任	校長先生	教頭先生	友だち	教務先生	養護教諭
②	担任	養護教諭	校長先生	教頭先生	友だち	教務先生
③	担任	教務先生	養護教諭	校長先生	教頭先生	友だち
④	担任	友だち	教務先生	養護教諭	校長先生	教頭先生
⑤	担任	教頭先生	友だち	教務先生	養護教諭	校長先生

- ・学年報や廊下にお手本となるノートを紹介する。
- ・PTA参観日(7月、12月)に、N(家庭学習)ノート(全員分)を展示して保護者にも見てもらう。

☆長期休みのドリル購入について

- 2～6年生 夏・冬ともに、自由購入(休み前のPTA時にお知らせ・ドリル展示・購入)
- 1年生 夏(学級で購入)・冬(自由購入)

中仙スタンダード(授業・道徳・特活)の活用

- ・板書とノートの基本

【板書】ノートにあわせて、「めあて(かだい)」「赤」「まとめ」青

【教科ノート・教科ファイル】

3～6年 国語・社会・算数・理科→A4ノート

1・2年 国語・算数→B5ノート

マスの大きさは学年にあわせて

- ・各教科、ファイルを活用して、学びの跡を蓄積していく。(評価につながる)
- ・道徳：道徳シートの活用(こころプロジェクトより提案)
- ・特活：特活コーナー(行事のふりかえりカード、学級会コーナー：こころプロジェクトより提案)

テスト&ドリル&プリント(AIドリル)

- ・単元テスト：1～6年生：算数 3～6年生：理科
※単元テストの採点&点数の入力……TT担当の先生にお願いすることも可
- ・業者テスト(光文書院)1～6年生：国語 3年：社会(自作)4～6年生：社会
- ・ドリル：漢字・計算ドリル
- ・形成プリントは購入せず、児童の実態、進度に合わせてプリントを作成するか、AIドリル(ドリルパーク：ベネッセ)を活用。AIドリル(中仙教4校統一)

学習アンケートと教師アンケート(7月、12月) →振り返りを次へ生かす。

【その他】

- ◎カリキュラムデザイン、年間指導計画(中仙教で分担、中仙小：社会・音楽・道徳・外国語)
- ◎学力検査：CRT～1～3年生、県学習状況調査～4～6年生
- ◎教室環境について(UDの視点による掲示物の配置)
- ◎つなげる学び→ハンドサイン
- ◎ふりかえりの視点、教室内に掲示
- ◎話型、声のものさし、話し方&聞き方名人、ことばの宝箱(R6年度用の教科書で作り直し)